

# 岩倉市初の名古屋友禅 伝統工芸士

まるすえ ぶく そめ こうぼう  
丸末呉服・染工房さくら

〒482-0026 岩倉市大地町郷前 1

TEL: 0587-37-3031

<https://somekoubousakura.blog.jp>



## ■会社概要

大地町にある呉服屋「丸末呉服」の娘櫻井めぐみさんが呉服屋内に構える名古屋友禅の工房です。丸末呉服は60年前にめぐみさんのお父様が創業しました。もともとは店舗を持たずお客様のお宅を訪問して呉服を販売していましたが、大地町に店舗を構えました。染工房さくらは20年ほど前から、同じビルの二階にありましたが、現在は、三階の広い場所に移転しました。全国でも友禅師を抱える呉服屋さんは大変珍しいそうです。



友禅は、日本の代表的な染色方法の一つです。京友禅、加賀友禅、東京友禅等の種類がありますが、その一つ、名古屋友禅の技術を持つ友禅師が岩倉市にいます。

## 反物1枚3か月 一人で染め上げる名古屋友禅

友禅染について、白生地に下絵を描き、模様の輪郭を糸のように細い糊で縁取り、筆や刷毛で色をつける「糸目友禅技法」という方法自体は産地によってあまり変わりません。しかし、京友禅、加賀友禅は完全分業制で、下絵を描く人、糸目糊を引く人、柄に色を挿す人など各工程の職人さんがいるのに対して、名古屋友禅はデザインから染めまで一人でほとんどの工程を行います。私は一人で染めているので、総柄の着物を1枚染めるのに約3か月かかります。大変ですが、思い描いた着物を全工程を通して表現できることはすごく恵まれていると思います。

## G1レースの優勝馬にかける レイを名古屋友禅染で作成

名古屋友禅黒紋付共同組合連合会という染めの組合があります。その組合事業の一環で、中京競馬場開設60周年を記念して、G1レースの優勝馬にかけるレイを、地場産業の名古屋友禅染でつくることになりました。コンペ形式で、2013年から10年の間に約10枚以上のレイを染めさせていただきました。これからも一枚でも多くのレイを手掛けられるよう頑張りたいと思います。

## 商売人の父との二人三脚

父は呉服屋、商売人です。若くして独立した時に、高級路線に切り替えました。商品をとて大切に作る人で、着物に流れる物語やお客様に合わせることをとても大切にします。例えば、お客様が私の作品と同じ構図の着物が欲しいとおっしゃっても、「お客様の体格や雰囲気によって、その方に合った図案に描き変えなさい。お客様に合わせてよりよくできる能力が無ければだめだ。」と言いつけられてきました。職人は、ときに自分の型にハマってしまふところがありますが、父のようにお客様と直接に接しているプロの意見に耳を傾けることによって冷静になれるます。

昔と違って、着物は、枚数をたくさん持つ方が少なくなりました。お客様には、良いものを長くいつ着ても感動してもらえようように心がけています。これからも、商売人の父の考えや感性を持ったまま、職人でもありたいし、作家でもありたいと、欲張りなことを考えています。

「着物は手入れが大変。というイメージがありますが、そんなことはありません。着物の魅力とあわせて、着物の扱い方をもうと知ってもらい、身近なものにしていきたいと思っています。そして着物のことで何か困ったら丸末呉服。と言われるような呉服屋・友禅師になりたいと思っています。」そう語るめぐみさんは、岩倉総合高校での講演や、生涯学習講座の講師も積極的に受けておられます。その眼差しは熱く、エネルギーに満ち溢れています。